



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

不登校問題の多様な 支援の在り方は？

9月議会の 一般質問を 傍聴して

あきる野市の不登校の実態

人生初の市議会傍聴で、きよろきよろしながら傍聴席に着きました。

辻さんの不登校についての質問が始まりました。不登校児童生徒が5年間で3倍近くに増え、長引く子どもも多く、不登校児童生徒の半数以上がせせらぎ教室に通えず（通わず）スクールソーシャルワーカーとも繋がっていないとのこと。

学校に行きたいのにいけない子もいるでしょう。学校に行きたくないと思っている子もいるでしょうし、学校が行きたい場所であってほしいと願っている子もいるでしょう。積極的に自らの学び方を選択した子もいるでしょう。家族の状況、健康、人間関係、学び方など、それぞれがそれぞれに悩みを抱えているのでしょうか。

辻さんが質問した、「教育支援センターの目的の明確化と共有化、支援のための個人票の内容や使い方、支援のための連携の進め方、保護者間の交流の場を設けること」などに対する指導担当部長の答弁は、前向きで分かりやすく今後に期待すること大です。

学びの形は多様であるべきだと思います。大人たちは多様な学びを作り出す知恵を絞りださなければなりません。不登校児童生徒の問題を考えることで、今の学校の問題が浮かび上がってきます。不登校問題はすべての子どもたちの問題でもあると思います。
(T・S 草花在住)

辻さんの一般質問を聴いて分かったこと。

あきる野市の昨年度の不登校の子ども148人、その内90日以上欠席している子どもは小学校で63%、中学校で75%、共に全国平均に比べてかなり高い。今年度7月末の時点での不登校の子どもたちはすでに105人、その内、通える場としてのせせらぎ教室や支援の専門家スクールソーシャルワーカーのどちらにもつながっていない子どもは58人。子どもとその保護者の孤立した不安な姿が浮かぶ。不登校の増加に公的支援が追いついていない。

今年度からせせらぎ教室は教育支援センターとしての機能も持ち、学校復帰に限らず広く社会的自立に向けた支援を行うという目的を持つようになった。辻さんの質問で、今後教育委員会も含め不登校の子どもに対して学校復帰だけを目標とせず、個々の子どもに多様な支援を進めていく方針が改めて確認された。

市議会議員は、市民の代表としてあきる野市の方向を決める大事な役割を持つ。その中で市政のチェックだけでなく、市民のためになる市政をあと押しするのも重要な仕事だ。政治的立場からの結論ありきではなく、それぞれの事案に市民の目線で熟慮、調査して判断する。辻さんの日頃の努力は傍聴するとしっかり伝わってくる。
(A・M 小川東在住)



不透明な区画整理事業の 実態を明らかに

我が家は土地区画整理事業の対象地域となり、20年もの長い間ストレスにさらされ続けました。減歩^{げんぶ}という手法により、所有地が道路用地や公園用地として否応なく供出させられ、自宅周辺の風景もすっかり様変わりし、事業が終了した後も、「近代以前ならいざ知らず、現代の日本においてこんなひどいことが許されるのだろうか」と思い悩む日々でした。

引田でも区画整理事業が始まると耳にした時は、また苦しむ住民が出るのではないだろうかと思いが痛みました。そんな時に辻さんと出会い、今に至ります。辻さんは、引田の区画整理について一緒に考えてくれ、次々と露^{あらか}になる問題を調査したり、関係各所へ問い合わせにいたり、情報公開請求をしたり、あるいは議会での質問等々、区画整理の実態が市民の目に明らかになるよう行動してくれました。

また、私が都市計画審議会を傍聴した際には、幾度となく質問し意見を述べ、公平さ公正さの実現を迫る孤軍奮闘の辻さんを目の当たりにしました。引田における生産緑地の問題について発言したのは15人の委員中辻さん1人だけであり、意見すら述べずに挙手だけで原案に賛成する他の委員に失望しました。

万事において、決定に至る過程を主権者である市民が把握できるように実態を明らかにし、その上で適切な議論がなされることが望まれます。そ



れを体現しているのが辻さんであり、私たち市民の心強い味方です。
(T・Y
原小宮在住)

日本軍「慰安婦」問題について思う ～被害者の痛みへの想像力～

岸田氏が総理大臣に就任した。岸田氏は安倍政権下でも重要閣僚として安倍政権を支え、また、今回の総裁選でも安倍氏への忖度をさっそく発揮していた。パッケージが変わっただけで中身は何も変わっていない。

私が最も憂慮するのは日本軍「慰安婦」問題である。2015年末のこの問題についての日韓合意の際に、岸田氏が外務大臣として合意内容を記者会見で語ったのを覚えている人は多いと思う。この「合意」に関しては韓国の被害者が即座に反対の声を上げたにもかかわらず、与野党全てが賛成したのには驚かされた。

そもそも安倍氏は「強制連行はなかった」「韓国はゴールポストを動かす」などと、「強制」の意味を狭め、この問題をナショナリズムとナショナリズムの対立の図式に持ち込んだ。野党もマスコミもそして世論も、安倍氏の手法に翻弄されてしまい、真にこの問題に向き合おうという気概が薄れてしまったように思える。

日本の責任を否定する人の中には「慰安婦は当時の公娼であり、それを現代の価値観で裁くことはできない」という主張がある。しかし、日本の公娼制度は当時、国際的に批判されていて、また、国内でも廃娼運動が行われていた。全国から帝国議会へ「廃娼建白書」が出された際には、「日本のナイチンゲール」と言われたあきる野市（当時・五日市村）出身の萩原タケも賛同署名している。

日本軍「慰安婦」問題は女性への人権侵害の問題である。被害者がどの国籍であろうと、また、どのような民族・人種であろうと、ナショナリズムに煽られることなく、被害者の痛みへの想像力を働かせることのできる社会にしていきたい。

(T・K 草花在住)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 辻よし子・プロフィール ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぶ会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、3期目。常任委員会は福祉文教。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

無党派
一人会派

